

# 港南地域総合防災訓練開催

港南防災  
ネットワーク

平成23年  
12月号



2011・11・6 港南地域総合防災訓練

参加者1300人  
港南の防災を考える

朝からの曇り模様もなんのその、11月6日の日曜日港南地域の総合防災訓練が行われました。例年港南地域の訓練には多くの方が参加して頂いていますが今年も過去最高の参加者になりました。協力スタッフ165人（警察・消防・消防団・日赤・区職員等）港南防災ネットワーク43人、中学生・職員86人、そして一般参加が1034人と盛会でした。そこで見えてくる港南の防災意識を考えてみたいと思います。

平成23年度 総合防災訓練（港南会場／11月6日）参加者数

	団体数	参加者数		
		大人	子ども	合計
町会・自治会等	21	895	101	996
一般				
事業所	2	6	0	6
個人（職員を含む）		23	9	32
警察署	1	4	0	4
消防署	1	50	0	50
消防団	1	34	0	34
関係機関				
赤十字奉仕団	1	6	0	6
国際交流協会（英語通訳者）	1	1	0	1
社会福祉協議会（手話通訳者）	1	2	0	2
港区医師会	1	2	0	2
港区（総合支所職員、応援職員）	1	52	0	52
港南防災ネットワーク	1	43	0	43
港南中学校	1	86	0	86
港南の郷	1	5	0	5
港南小学校	1	4	0	4
プラリバ	1	5	0	5
合計	36	1,218	110	1,328



縄梯子訓練

平成23年11月6日 港区総合防災訓練（港南会場）参加人数

町会・自治会・マンション	団体名	大人	子ども	参加人数
2 日本住宅公団港南一丁目市街地住宅自治会	9	1	10	
3 品川駅港南町会	11	0	11	
4 港南三丁目第二市街地住宅自治会	34	0	34	
5 都営港南四丁目自治会	76	0	76	
6 港南三丁目アパート自治会	48	1	49	
7 港南三丁目第2アパート自治会	27	4	31	
8 港南四丁目第2アパート自治会	100	7	107	
9 港南四丁目第3アパート自治会	242	18	260	
10 フェイバリッツタワー品川自治会	14	8	22	
11 フェイバリッツタワー品川自治会	7	2	9	
12 赤レンガビル東八つ山公園	11	0	11	
13 バークタワー品川ベイワード	20	5	25	
14 シティハイツ港南自治会	4	2	6	
15 ラクシア品川ホルトチッタ	11	7	18	
16 パシフィック品川			0	
17 コスモポリス品川			0	
18 トウキョウシーサウスプラザアール	18	7	25	
19 グラシティ天王洲アイル			0	
20 シティタワー品川（マンション管理組合）	54	22	76	
21 ワールドシティタワー自治会	185	15	200	
22 ベイクレストタワー	2	0	2	
その他団体・個人参加		323	9	332
合計		1218	110	1328



バーナー組立の二年生



炊き出し班の一年生

日前に復習会を行います。一般参加の訓練日になります。一般参加



情報掲示の二年生

トイレ・担架搬送・初期消火。そして3年生は締めくくりとして、避難所生活のルール説明を担当しました。それぞれが、6月にプレ訓練で学習した内容を防災訓練の2



避難所説明の三年生

トイレ・担架搬送・初期消火。そして3年生は締めくくりとして、避難所生活のルール説明を担当しました。それぞれが、6月にプレ訓練で学習した内容を防災訓練の2

【中学生の防災訓練】  
港南中学校の全校生が防災訓練に参加するようになります。2年目になります。学年ごとに。1年生は防災訓練の見学。2年生は訓練の中心として情報掲示・バーナー組立・炊き出し・簡易



簡易トイレ研修の二年生



担架搬送研修の二年生



初期消火訓練の二年生



プレ訓練全体講習



訓練開始前のスタッフ打合せ

打ち合わせ中です。当日の参加スタッフは43人。

### 【港南地域の皆さんの防災】

そろいの黄色いジャンパーを着用した皆さんは港南防災ネットワークのスタッフです。11月6日朝8時、訓練開始の1時間前です。前日の5日も午後から準備に参加して頂き、当日も早くから集合し総合訓練に向けて



物資説明のスタッフ



配給班のスタッフ

年に一度の港南地域総合防災訓練を地域の防災活動の根幹と考え、各自治会・管理組合地域の施設の代表者が運営委員として参加して頂き一般参加者への防災対策を指導していくために、毎年、何度かスタッフ研修・会議を行い当日を迎えています。その中には、中学校プレ研修や備蓄倉庫の資料取り扱い研修などが含まれています。港南中学校の全校参加もそれらの活動の一環から実現してきました。さらに毎回、訓練後の反省会を実施し、次年度の活動材料として参加スタッフの皆さんの意識の高いうちに意見を頂き、事務局でまとめ、行政との窓口として次



反省会の様子

### 【編集後記】

度に生かしています。今回の防災訓練では、一般参加者が1000人を超えました。この人数は何を意味しているのでしょうか。参加者の中で目につくのは高齢の方々です。その次に多く目にするのは、すでに子供が独立し結婚しているだろう年齢層の方。一番見かけないのが一番働き盛りで小・中学生のお子さんがいるであろう年齢層の方々です。港南地域の居住者(夜間人口)はここ6・7年で8割ほど増加していて、現在18600人を超えています。これらの増加人口の多くは、比較的年齢の若い方々です。端的な例では、港南小学校の生徒数が700人を超えていることから判ります。これらの状況からみえてくることは、新しく港南地域にいられた方々の防災訓練への参加が非常に少ないということです。防災・減災には若い力が必要です。避難所では、実際に動いて頂く方々が必要です。避難してきた人々で運営するのが基本だからです。港南防災ネットワークでは、何を目標に活動していけばよいのでしょうか。

か。これまで、防災ネットワークでは、避難所の運営をどのようにスムーズに運営できるかを中心に活動してきましたが、港南地域は地区内残留地区に指定されており、大規模災害発生時にも基本的には自宅に留まり救援を待つように行政指導されており。港南小・中学校は避難所に指定されておりますが、災害時には各自治会・管理組合の単位で各々の住居に留まっていなければなりません。つまり皆さんの住居がそのまま避難所になるわけです。これからは、港南小・中学校を**防災拠点(物資集積所)**と考え、各自治会・管理組合を**居内避難所**と考え、**防災拠点**と**居内避難所**をいかに効率よく連携出来るかを考えていかなければいけない時代に来ていこうと思っております。

記事編集 発行

**港南防災**

ネットワーク

連絡先 会長 飯塚 則男

03-5460-0703